

## イスラム圏の女性の服装　ヘジャブ ハディジャ・キビラ（ウガンダ）

衣服—それは世界中のすべての人が体を覆うために着用しているものです。しかしイスラム教徒の女性の服装は、イスラム教の教えに準拠したものでなければなりません。世界中のイスラム教徒の女性は、ヘジャブを着用しなければならず、私もこのドレスコードを遵守している 1 人です。しかしイスラム圏のドレスコードについては誤解も多く、これまで何度も議論が繰り返されてきたにも関わらず、イスラム教徒にもそうでない人にとってもよくわからない部分がいまだに多く残っています。そのような服装が近代社会にふさわしいと言えるのでしょうか？文明の恩恵を受けず、虐げられている女性たち！

ヘジャブは規則上、頭、手、足を含む全身を覆う衣服と定義されています。コーラン 33 条 59 項では次のように規定されています。「預言者よ！汝の妻や娘、信者である女たちには（目の部分を除く）全身を覆うヴェールを用いるように言いなさい。そうすれば、他人に悩まされることなく（自由で尊敬すべき女性として）扱われるであろう・・・」

また、コーラン・スーラの 24 条 31 項では、「信心深い女たちには、見つめられる機会を減らし、プライベートな部分を守り、一見してわかるようなもの以外の装飾品を見せつけないように言いなさい。また、頭を覆い、胸を被い、装飾品も見せつけないように言いなさい・・・」

コーラン 7 章 26 節には、「アダムの子供たちよ。我らは汝に汝の恥部を被うために、また汝が美しくあるために衣服を与えた。衣服はまた汝を悪から守り、それこそが最善の・・・」とあります。

預言者は「娘に初潮が来れば、顔と手首から先以外の部分を人目に曝すのは正しいことではない」と言っています。

ヘジャブは、ジバブとヒマールの 2 枚の布でできています。ジバブは外側に着る衣服で、家着を覆う、床までの長さのワンピースです。全身を覆うことができるよう余裕があり、腰、胸のラインやお尻から太腿などの形がわからないよう、ゆったりと覆います。ヒマールは頭から被る 1 枚の布で、首から胸から上の部分までを覆います。これらの色合いや生地は似通ったもので、装飾的でなく、目立つこともなく、けばけばしく人目を引くものでもありません。男性の衣服とも違います。また、極端に安っぽかったり醜くかったりするものでもありません。

イスラム教徒の女性は、格好よいか流行に敏感だとかいうことを目指しているわけではありません。ヘジャブはコーランやスンナ（慣行）にのっとって作られており、最新の流行ファッションではないのです。かといって、見た目はどうでもよく、アイロンがかかっておらず、汚らしい衣服でよいということではありません。イスラム教徒は預言者（ムハンマド）のおっしゃる通り、きちんとした服装をしなければなりません。

ヘジャブは、レイプや性的虐待などの女性を狙った犯罪が多い社会では特に有効です。

アッラーの神の教えの通り、ヘジャブによって不道德な行いからイスラム教徒の女性を守り、社会で正当なポジションを与えることができます。すなわちイスラム教徒の女性に敬意を払い、彼女たちの貞操を守ってくれるのです。

ジバブを着ていると、歩くのも危険だとか、普段の日常着としてはふさわしくないという議論もあります。しかし、体に合うようにきちんと作られたジバブは体の形をさらすことなく、歩行にも学習にもその他の日常活動にも何の差し障りもありません。世界中に何百万人というイスラム教徒の女性はジバブを着用し、自信を持って日常生活を送っています。仕事にも学習にも何の差し障りもありません。大切な面接や結婚式、修学旅行の時など、イスラム教徒の女性はヘジャブを着用しなければなりません。そしてそれはイスラム教徒としての私たちのアイデンティティとは切っても切れない服装なのです。偏見を持っている人もあるでしょう。しかし、能力や技術までもが覆い隠されるわけではないのです。